

福島県リハビリテーション専門職 学術集会 2018

ともに学び、ともに歩む、
地域に根ざした自立支援



平成30年9月2日日曜日に福島県リハビリテーション専門職学術集会 2018 が開催され、当日は一般も含め780名の方が集会に参加されました。

今回は発表者、座長、実行委員それぞれの視点から学術集会について振り返りのコメントを頂きました。

福島県リハビリテーション専門職学術集会 2018 体験記

PT・OT・ST が合同に会する初の福島県リハビリテーション専門職学会で脳卒中後の低栄養・サルコペニアに対しリハビリテーション栄養ケアプロセスに基づいて介入した症例について報告しました。新しい取り組みでは、時には悩み挫けそうになることもありましたが、患者さんの好きなものを食べる喜びを取り戻すために、多職種理解・協力を得て、栄えある優秀賞をいただくことができました。多職種での包括的なケアに対する受賞で、チームを評価していただけたことを大変嬉しく思います。

退院後、在宅でもおいしく食べ続けるためのアプローチでもありましたが、今回の学術集会のテーマでもある、ともに学び、ともに歩み、地域に根ざした自立支援が行えるよう、今後も多職種で取り組んで参ります。県中地域では切れ目ない摂食嚥下ケアのしくみを構築するため、摂食嚥下連絡票の活用が始まります。専門職として地域で食べ続ける支援に尽力していきたいと想います。

三春町立三春病院 會田梨恵



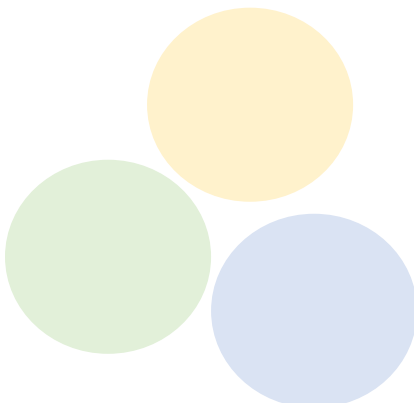
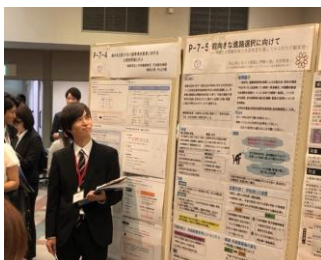
リハビリテーション専門学術集会での発表を終えて

今回初めてのポスター発表でしたが、学会運営スタッフの方がポスター準備等をお手伝いして下さったことで設置もスムーズに行え、余裕を持って発表に臨むことが出来たと思います。運営スタッフや座長の皆様に感謝申し上げます。

さらに理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と三職種合同ということもあり、様々な職種の方から意見やアドバイス、感想など、取り組みについてのお話を伺い、学びの多い場となりました。今回のケースに対しての支援の在り方について再度考える機会となり、今後に活かしていきたいと思います。また、多職種へ向けての情報発信ということから、伝えることの難しさも実感しました。

今回の発表を機に「ともに学び、ともに歩む、地域に根ざした自立支援」の実現に向けて、自己研鑽を怠らず、「自立支援とは何か」についてもさらに理解を深めていきたいです。

あづま脳神経外科病院 秋山淳



リハビリテーション専門学術集会での発表を終えて

今回、高次脳機能障害を抱えながらも、住み慣れた地域で生活するために言語聴覚士として取り組んだことや、支援者としての役割についてポスター発表で参加させて頂きました。福島県全域のリハビリテーション専門職の皆さんが多く参加されていることもあり、地域の言語聴覚士が日々行っている支援について知っていただく貴重な機会となりました。

発表を終え、様々な地域や領域でご活躍されている言語聴覚士をはじめ、理学療法士、作業療法士の皆さんからも質問、意見を多く頂き、地域での言語聴覚士として、臨床や支援にて、他職種からどのようなことが求められているのか、改めて考える機会となりました。

地域で必要とされる言語聴覚士になるため、今回の学びを今後の支援に活かしていきたいと思います。

あづま脳神経外科病院 佐々木瑠美



POS 学会 発表体験記

学会発表をした経験がなく、機会があったらしてみたい気持ちはありました。POS 学会の数か月前に、耳鼻科での自身の担当患者様の評価の際に耳鼻科医から、「症例としてはまとめて発表できるように準備と許可をとっておくといいよ」とアドバイスをもらっており、自分としても印象に残っている患者様だったので発表につながったらと思っていました。

発表の準備が始まると、1 から 10 まで出来ないことばかりで先輩や教授に忙しい中沢山指導をしていただきました。必要な記載、専門用語の使い方、矛盾のない展開やまとめ、裏付ける論文検索と発表の形にするのは本当に大変だと思いました。

その後スライド作成と実際の口述の練習（台詞）になったのですが、こちらはもっと大変でした。聴衆に対して時間内に内容を伝えることがこんなに難しいと思いませんでした。

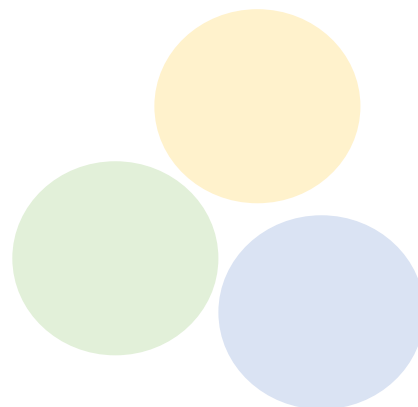
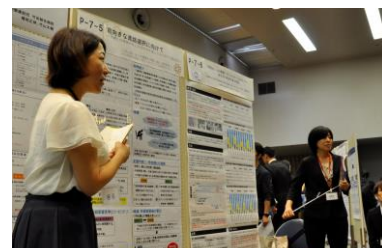
発表は緊張してあまり覚えていませんが、この2 か月間の作業の中で勉強になることはとても多かったです。

公立大学法人 福島県立医科大学附属病院 菅野 健一

去る9月2日に開催された福島県リハビリテーション専門職学術集会において、ポスター発表の第7セッションの座長を務めさせていただきました。最初にお話をいただいたときには、他職種の方の発表もあるので、自分に務まるのかと不安になりましたが、同じ学術部の上遠野先生にご相談しながら、当日どうか役目を果たすことができました。

当日は、フロアから活発に質問があり、得るものの多い時間になりました。中でも、リハビリテーション介入した新生児についてのPTさんの発表では、病院から他の地域につなぐお子さんの話題になり、地域の資源につなぐためには、病院だけではなく市町村の母子保健担当にもつないでいただきたいことをお伝えさせていただきました。他職種の方との学び合いの中で、それぞれの課題を共有し、つながり、高めあえる貴重な機会をいただき大変勉強になりました。

南相馬市役所 子育て支援課 発達支援室 上原麻美子



9月2日に郡山ユラックス熱海で開催された「福島県リハビリテーション専門職学術集会 2018～ともに学び、ともに歩む、地域に根差した自立支援～」に実行委員として参加させていただきました。実行委員は理学療法士4名、作業療法士3名、言語聴覚士3名で構成され、昨年の夏から打ち合わせを重ねてきました。福島県内では初めてとなるリハビリテーション専門職による学術集会ということで、色々不安もありましたが、委員の皆さんの人柄、行動力のお陰で順調にすすみ、前日・当日には多くの運営スタッフにもご協力頂き、滞りなく執り行うことが出来ました。改めてリハビリの仕事の領域の広さやリハビリの仕事に就く方達の前向きさや明るさに接して、今後の活動の励みになりました。

南東北春日リハビリテーション病院 鈴木陽子

